

# 平成27年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	平成27年岩手県産水稻の生育経過の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析		
[要約] 本年は活着は良好で、6月から7月にかけて高温多照で経過したため、有効茎は早期に確保され、出穂期は早まった。適正な追肥の実施により㎡当たり籾数を平年並みに確保したほか、登熟歩合は良好で、玄米千粒重が平年を上回ったことから、精玄米重は平年を上回り、玄米品質も良好だった。					
キーワード	水稻	作柄	品質	○技術部 作物研究室、県北農業研究所 作物研究室、環境部 生産環境研究室・病理昆虫研究室、病害虫防除部 病害虫防除課	

## 1 背景とねらい

本県の技術対応に資するため水稻生育経過と作柄・品質の成立要因を明らかにする。

## 2 成果の内容

### (1) 平成27年度の生育経過の特徴

ア 育苗期は全般に高温で経過し、移植期の苗は草丈、地上部乾物重とも平年を上回り、苗の充実度（乾物重/草丈）も平年を上回った。

イ 分けつ期の高温多照により、分けつ盛期（6月25日）の茎数は全県で平年比119%となり、平年より早く有効茎が確保された。最高分けつ期の土壌中アンモニア態窒素が平年並みまで低下したことから、幼穂形成期を重点に窒素成分で2kg/10aを上限に追肥を指導した。

ウ 7月は高温多照で経過したことから、出穂期は平年より5日早かった。

エ 葉いもちは、感染好的条件がほとんど出現しなかったことから発生は少なかった。葉いもちの上位葉における発生は平年より少なかったことや、8月上旬にほとんど降雨がなく穂いもちの感染に不適だったことから、穂いもちの発生は平年より少なかった。

オ 紋枯病は、茎数の増加が平年より早かったため菌核が稲体へ早期に付着し、6月下旬以降高温で経過したことから早期感染、水平進展が見られ、発生量は多かった。

カ 登熟初期は高温多照となり、粒の肥大が促進された。

キ 籾殻の大きさは平年より大きく、割れ籾が増える登熟中期以降の粒の肥大は、平年並みから緩慢に進んだことから、割れ籾の発生は少なかった。また、成熟期は平年より2日程度遅くなり、登熟期間は平年より長かった。

### (2) 平成27年度の収量及び収量構成要素と特徴

一穂籾数が平年よりやや少なかったが、穂数は平年より多く、㎡当たり籾数は平年並みだった。登熟歩合は良好で、玄米千粒重は平年を上回ったことから、精玄米重は平年を上回った。作況指数は県全体で「105」（10/30公表）のやや良だった。

### (3) 平成27年度の玄米品質と特徴

水稻うるち玄米の1等米比率は95.5%（昨年同期92.5%）と高く、2等以下に格付けされた主な理由は着色粒（かみじ類等）だった（H27.11月末現在）。

穂揃期において、登熟に寄与する非構造性炭水化合物（NSC）の蓄積が多かったこともあり、玄米品質は良好だった。

## 3 成果活用上の留意事項

全県を対象とした解析であり、各地域の実態と異なる場合がある。

## 4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等 農業改良普及センター等指導機関

(2) 期待する活用効果 水稻の生育と作柄・品質の成立要因を明らかにし今後の技術対策に資する。

## 5 当該事項に係る試験研究課題（805-1100）水稻作況調査と作柄成立要因の解析〔H14～30（県単）〕

## 6 研究担当者

永富巨人、齊藤智宏

## 7 参考資料・文献

(1) 平成27年産水稻の収穫量（東北） 東北農政局統計部

(2) 平成27年産米の検査結果（速報値）（岩手）（平成27年11月末日現在）東北農政局盛岡地域センター

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）

# 2015年 水稻作柄解析概略図

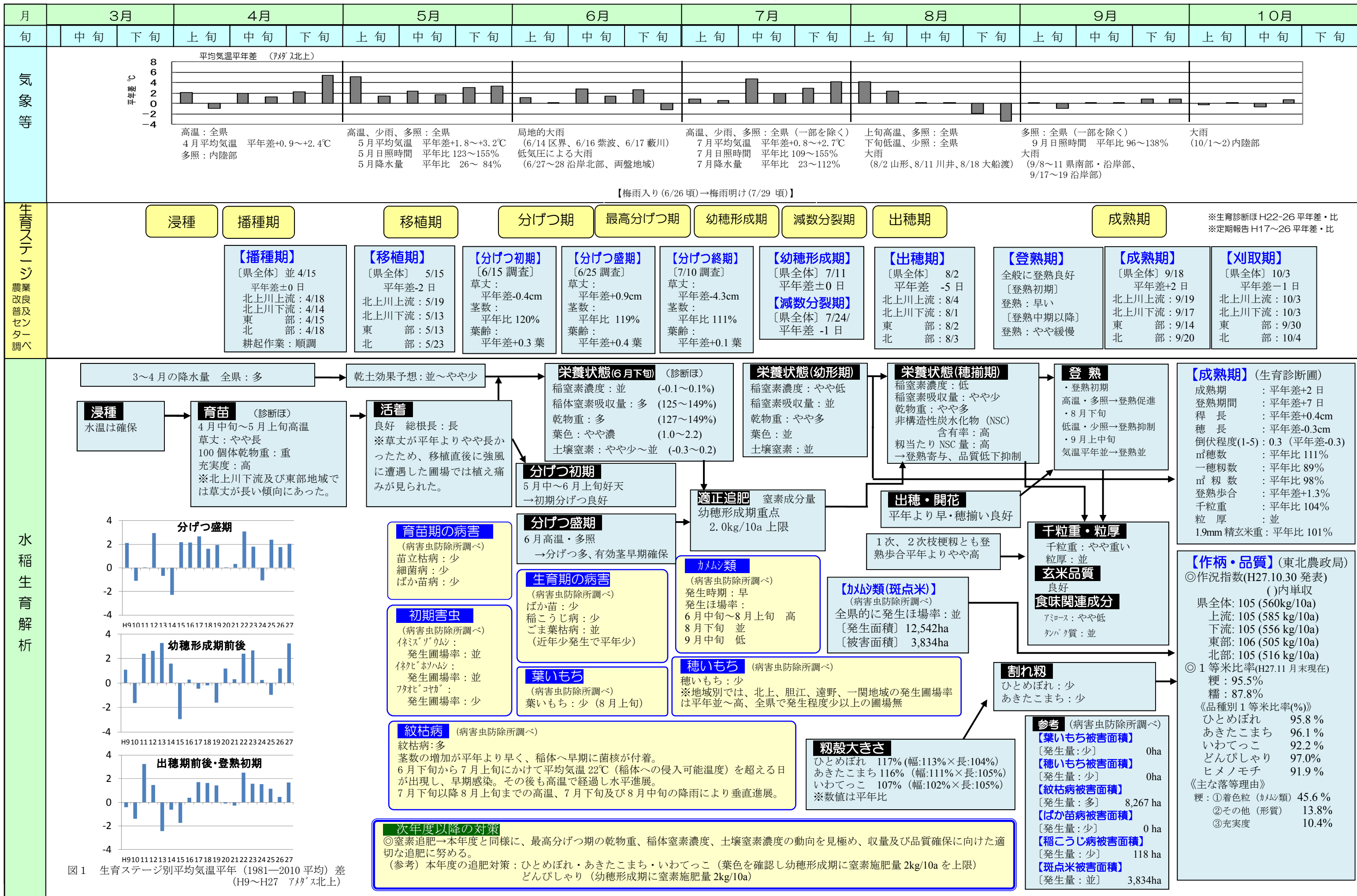


図1 生育ステージ別平均気温平年(1981~2010平均)差 (H9~H27 アマガシ北上)